

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200311		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム エキササの家		
所在地	札幌市東区北16条東3丁目1番50号		
自己評価作成日	平成23年8月17日	評価結果市町村受理日	平成23年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190200311&amp;SCD=320">http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190200311&amp;SCD=320</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年9月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員だけでなく、入居者やご家族も見れるようにリビングに掲示しています。「なじみの家」となるように日頃から近所の方と交流の機会をつくり、積極的に外出をしています。理念を基に、入居者の方を尊重したケアを重視し、毎日を有意義に暮らして頂けるように努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から「ユキササの家」を知っていただけるように積極的な挨拶を心がけ、近所のスーパー・コンビニ・公園・区民センターでのコンサートへ外出、回覧板の受け渡し、高校生との交流、町内会のクリーンウォーキングや学校の資源回収に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会や運営推進会議にて、認知症についてお話させていただいています。高齢者の方が集うサロンをサポートされている地域の方と、サロンへの参加計画相談を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の行事を教えていただき、取り入れています。避難訓練を見ていただいた際は、運営推進会議にご出席の皆さまよりいただいたご意見を、次に活かせるように職員へ伝達しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題が出た時など、入居者やご家族の方の諸事情を踏まえながら解決できる方法をご相談させていただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し入居者の行動を止めないケアを念頭に取り組み、細かな言葉づかいも含めて拘束にならないように気をつけ接しています。夜間は防犯の為施錠しますが、日中は解錠して自由な空間づくりをしており、散歩や買い物等その方に合った支援をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を通し、虐待について学ぶ機会を設けています。入浴時や更衣時に身体状況の確認をし、言葉づかいや排泄間隔にも留意して虐待防止に努めています。対応方法に課題が出た時は、職員一人で悩まず相談し合い虐待防止につながらないようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用される際、必要に応じて職員介入し受け答えできるように援助しています。制度の内容について学ぶ機会をつくっていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約内容や重要事項をご説明させていただく際は、ご質問や不安に思う事はないか、要所所でご確認をとりながら進めさせていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段入居者の方から聴かれるご要望、来訪時やお電話にてご家族から聴いたご要望は、全職員が把握できるように記録に残し、必要に応じてケアプランに取り入れ対応しています。苦情が聞かれた場合は、報告書として取り上げて全職員で取り組み、入居者・ご家族に安心していただけるように改善しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者やご家族のご要望の実現に向けて、情報収集・提案・計画を進めていけるように、どこにポイントを置いて考えると良いか段階に応じてアドバイスしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の方が望まれる生活・職員の業務内容に応じて柔軟な勤務体制をとる事により、負担軽減し向上心を持てるようにしています。業務に支障のない範囲内であれば、有給休暇をとりやすい環境づくりをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの立場や経験に適した外部研修や内部研修を設定しています。また、習熟度に応じ職員への聞き方を工夫しています。どのような時が地域の方と関わるチャンスとなるか考えられる力を養い、地域密着型を意識していけるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同事業体や区の管理者会議に、職員向けの研修を取り入れて意見交換・交流の機会をつくり、日々の支援や業務に役立てるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と初めてお会いする時は、その方の表情をみて座る位置や距離に配慮させていただいています。どのような会話に興味をもたれるか、会話の様子から自己紹介は苗字が良いか名前が良いかを考慮させていただき、関わりやすいと思っていただけるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまで介護をされてきた中にある思いと、入居を決断された思いを受け止め聴かせていただいています。ご本人からは訴えられなかったご要望や不安も、介護をしてこられたご家族の方が感じている思いとして受け止めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から聴かせていただいた他に、環境についても見聞きさせていただき、継続するもの改善が必要と考えられるものをご相談させていただいています。また、ホームで課題解決が困難な事については、専門機関にご相談させていただき対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で困難な事は支援させていただき、できる事は一緒に行っています。お料理やお掃除のコツを教えていただきながら一緒に行う事で、その時の気持ちを共に感じ一緒に暮らしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員側の一方的な考えや支援にならるように、近況報告やご相談をさせていただき、ホームでの生活に対するご要望を話していただいています。行事等にもお誘いさせていただき、入居者とご家族が一緒に過ごす場面づくりをしています。来訪が難しいご家族には、お手紙やお電話でお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や馴染みの場所を把握して、会話の中に取り入れたり来訪時には一緒に写真を撮るなどして、思い出づくり（安心できるもの）をしています。習慣となっていた事を継続できるように、近所のお地藏さんをお参りする事もあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味が同じ人同士での交流の場面をつくっています。入居者の方同士で手を貸しあっていたり和やかな雰囲気の際は、職員は影の存在となって見守り、関係を大事にしています。合わない方がいる場合は、双方の間に壁をつくってしまうのではなく、場面に応じて職員介入し、皆さんが関わり合っていくように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となった場合、ご本人ご家族の負担軽減を図り安心して暮らしていただけるように、関係機関と連絡調整をとっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように暮らしたいか普段のコミュニケーションの中から聞かせていただいています。言葉に出されなくても、ご自身より積極的に行われている事や、生活歴等から意向をくみとっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境をお伺いし、なるべく馴染みの環境に近づけるように努めています。また、ご本人やご家族、他事業所からサービスを利用される事となった背景をお聞きし、現在の生活を支えられるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調により心理面も影響されやすい為、睡眠・食事・入浴・排泄・歩行可能な距離等その日の健康状態の確認から入り、気分が優れないご様子の時は、無理に誘わず何故かを考え、次の機会へとつなげています。調理や掃除場面では得意分野で力を発揮できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時や介護計画見直し時期には、可能な限りご家族に参加していただいています。ご参加が難しい時は、お電話にてご意見をいただいています。また、見直し時期以外にも、日頃から課題について話し合い、その時必要な支援を提供できるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った情報、ケアプラン以外の事でも気づきや変化を記録に残して情報共有し、常に報告し合って対応できるようにしています。些細な言動も記録に残し、状況に合わせて行った支援が今後の支援につながるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズは、今出ているものだけと決めつけず、その日その時の心身の状態に合わせ対応しています。ご家族からも、気付いた事や不安に思う事を都度話していただき、解決方法を話し合っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	車椅子で、買い物・食事をできるお店を把握し、また区民センターへ音楽を聴きに行く時は、車椅子の方が出入りしやすい場所を事前に調べ楽しんでいただけようようにしています。また、職員だけでは難しい外出もボランティアの方のご協力をいただき実現できるようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでかかっていた病院を継続されるか、ホームの協力医療機関に変更されるか、ご本人やご家族のご希望に沿った医療機関を受けられるようにしています。他科受診が必要な場合は、待ち時間が短い、通院しやすい等を考慮しながら主治医にご紹介していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いた事や疑問に思った事は相談し、適切な対応をできるようにしています。普段の様子を介護職員から看護師へ伝え、看護師から主治医へ情報提供する事で適切な医療・看護を受けられるように連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の心身のダメージを少しでも抑え、なるべく今の状態を維持できるように、入院時に心身状態の情報提供をさせていただいています。病室でも緊張状態を緩和できるように馴染みの物を持ち込んでいい医療機関とご相談しています。早く退院できるように入院中も情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族の最期のお考え方や、ホームではどこまで対応できるかについてご説明させていただいています。状態が変化した場合は、医療機関からの情報やアドバイスをいただき、ご本人やご家族の希望に沿った生活を送れるようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受講し、受診の判断や緊急対応時のマニュアルを作成しています。入居者の方の日頃の体調を把握し早め早めの対応をできるように努めています。実施訓練回数を増やし適切な対応をできるようにしていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、その後反省会を行って気づきやポイントを共有しています。近隣の方へ災害時のご協力をお願いをしています。連絡体制や避難場所を掲示し災害時に備えています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を尊重し支援しています。言葉づかいに気をつけ、居室に入る際は入居者の了解をいただいています。トイレへ行く時や失禁した時、排便確認をさせていただく際は、他の方にわからないように配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方が答えやすいような聞き方をしたり、選びやすいように服など現物を見ていただいています。また、座りたい場所やしたい事をお伺いし、自己決定の場面をつくっています。言葉の他に、視線や表情からも希望をよみとれるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人から直接お聴きする他、仕草や行動から何をしたいかがいながら支援し、入居者が今行っている事を中途しないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品を使う方使わない方、使う方は希望の色やメーカーがあるか情報収集しています。理美容を受けられる際は、ご希望の髪型をお伝えできるように支援、或いは代弁させていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物へ行き選んで頂くことで、好物を発見し楽しんで頂けるようにしています。食事作り～後片づけでは、好きな事や得意な事を行えるように支援しています。お好みの物をメニューに取り入れています。お好みの物をメニューに取り入れています。お好みの物をメニューに取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	米飯、おかゆ、パンの中から選んでいただけるように用意しています。形を工夫したり、嫌いなおかずの時は代替食を摂れるように栄養のバランスに留意しています。水分摂取量が少ない時は速やかに対応できるように、水分摂取量を都度記入し、全職員が把握できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをして、できる部分はご本人に行っていただき、最後にみがき残しを介助させていただいています。歯磨きが済んでいるか未だかわかるように記録用紙にチェック項目を設けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間紙パンツを使用されている方は、日中は布パンツを履けるように支援しています。排泄の間隔を把握してトイレの声掛けをし、トイレでの排泄を増やせるように支援しています。更なる改善に向けて、声掛けやタイミング等の工夫に努めていきます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬に頼らず飲食物や運動で排便できるように、食物繊維の物をメニューに取り入れたり、牛乳や好きな飲み物を選んでいただいています。掃除や外出をして運動につなげられるように支援し、腹部マッサージを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂を好まれる方、お好みの温度で入浴できるように、個々の希望に沿って準備しています。時間帯等、入居者の方の意向を反映できるように努めていきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間になったから寝るのではなく、会話が盛り上がっていたり好きな番組がある日は、その日の過ごし方に応じて対応し、満足感から安眠につながるよう支援しています。お昼寝は生活リズムを崩さないように留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書をファイルし、いつでも薬の内容を確認できるようにしています。下剤や軟膏は最低限に抑えられるように、経過を観て状態に合わせて使用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、音楽鑑賞、スポーツ観戦、絵画、散歩等、その方の趣味を楽しんでいただけるようにしています。ひもを扱うのが得意な方には、新聞をまとめていただく等して持っている力を発揮できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員だけでは困難な外出も、ご家族やボランティアの方のご協力をいただき、行ける為にはどうしたら良いか考え実践しています。一人ひとりの希望に沿った外出を増やしていけるように、検討していきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が持たれるかホームでお預かりするか、管理方法や金額はご本人やご家族と相談し、個人に合わせた管理方法を行っています。ホームでお預かりしている場合でも、実際に支払う時はご本人がお支払いできるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族の都合の良い時間帯をお聞きし、ご希望時は電話をかける機会をつくっています。贈り物を受け取った際にはお礼の電話をする機会をつくり、ご家族やご友人との関係を大切にしています。お手紙が届いたら郵便受けまで取りに行く場面づくりをしたり、お正月には年賀状を買いに行き送る事もありました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物、手作りの物、新聞や雑誌を置いて家らしい雰囲気づくりをしています。転倒防止や安心につながるように照明を工夫したり床の汚れに気をつけ、温度計・湿度計を設置して環境衛生面に留意しています。馴染んだカレンダーを見れるように、日めくりや1カ月タイプの物を掲示しています。季節感を感じられる物を入居者の方と手作りする計画を立てています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで過ごされる空間の他に、一人でゆったりと新聞を読んだりする事のできるスペースをつくっています。普段椅子のない所でも、その場所が落ち着くような様子の時は椅子をご用意し、好きな所で過ごしていただけるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物や家具を用意して頂いたり写真を飾り、安心して暮らしていただけるようにしています。ベットやお布団も馴染んだ物にいただき、これまでの生活習慣を大切にしています。小物はご本人の好きな所に置けるように、居室掃除の際ご相談しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事や関心のある事を行えるように、見てわかりやすい配置や表示をしています。台所の引き出しの中身がわかりやすいように、中に入っている食器の写真を引き出しの表側に貼り、わかりやすく、また活動への意欲を引き出せるようにしています。		